

アクティブハイスクール支援事業

「夢手帳（スケジュール管理手帳）」の開発

1．これまでの経緯

平成18年度まで学力向上フロンティアハイスクール事業や学力向上拠点形成事業の中で「取り組んできた学習記録表と従来の生徒手帳を合体させ、見開きで1週間の予定を書き込むスケジュール欄を設け、勝山高校オリジナルの手帳「夢手帳」を平成20年に作製し、その活用に努めている。

2．目的

授業変更や連絡、週末課題等をメモさせ、一週間の家庭学習計画を立てさせることで、ムラのない学習時間（本年度重点目標 平日 1年 - 2.5時間、2, 3年 - 3時間）を確保させる。生徒自身に生活の現状を把握させるとともに問題点を発見させ、これからどうすればよいかを自ら考えさせる機会を作る。

自分が勉強した内容、時間を毎日記録させることで、これだけのことをやったのだという自信を持たせる。

将来社会人になるにあたって必要とされる時間管理能力・情報管理能力を高校生のうちから訓練し身につけさせる。

3．手帳の記入方法

表紙に「1145 勝山花子」のように生徒番号・氏名を記入させる。

「スケジュール貼付欄」に学期毎の行事予定表を貼付させる。

学習計画を立てさせ、実行した内容・時間を記入させる。

4．運用方法

朝礼のない火・木曜日に、担任・副担任でチェックをし、声かけをする。

月に一度（主に漢字テストの日）回収し、コメントを書く。

個人面接の際に持参させ、生活・学習状況についてコメント・アドバイスする。

5．利用の状況

よく活用している事例



6. 生徒の感想

良かった例

毎日の生活や勉強時間を見直し反省できるようになった。
 時間の大切がわかり、勉強時間を増やそうという気持ちになった。
 先の予定を見て、計画が立てられるようになった。
 三日坊主のタイプだが、チェックが入ったので続けて書くことができた。
 あとで読み返すと達成感があり、励みになった。

良くなかった例

自分の勉強時間が少ないと、書こうという気分になれなかった。
 一度書くことをやめたら、書くのをやめてしまった。
 途中で面倒くさくなって、手帳をつける気がなくなってしまった。

7. 生徒アンケート結果（平成21年9月実施）

問 あなたは一週間にどのくらいの頻度で夢手帳を利用していますか。

（人）	1年生	2年生	3年生	合計
7～6日	31	42	55	128
5～4日	40	50	37	127
3～2日	59	34	36	129
1～0日	22	27	27	76

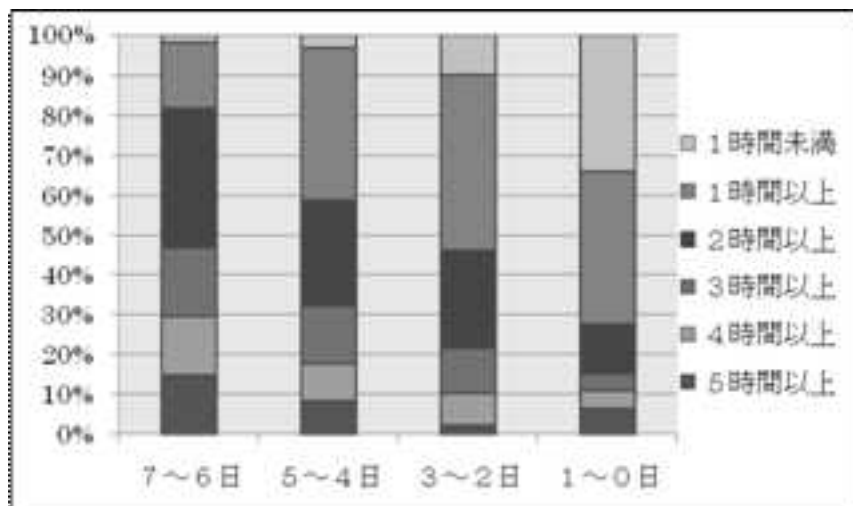
学年が上がるにつれて利用頻度が増す傾向がある。

問 夢手帳の活用が学習の「やりがい・励み」になっていますか。

（人）	1年生	2年生	3年生	合計
なっている	95	78	108	281
なっていない	57	74	45	176

宿題や小テストの予定などを書き込むことが、直接学習計画を立てることにつながると思われる。

手帳利用頻度と家庭学習時間（1日平均）の関係



8. まとめ

生徒の感想やアンケート結果からわかるように、夢手帳の利用が学習の「やりがい・励み」になっており、利用頻度が高いほど学習時間の長い生徒が増える傾向がある。さらに、「夢手帳」に残した今までの「学習の記録」を振り返ることで、「自分はこれだけやったんだから大丈夫だと自信がわいた」と、夢手帳の利用することで受験に対する不安を払拭できたと述べた受験生もいた。

アクティブハイスクール支援事業の大きな柱であるコーチング研修からヒントを得て、来年度の「夢手帳」に以下の「夢宣言」というページを設けることにした。



「夢宣言」で「なりたい自分」を自ら宣言することで自己責任を持たせると同時に、夢を文字化して「見える化」することで忙しく過ぎる日常の中で常に夢を意識し、志を高く持ち続けることをねらいとしている。さらに、その夢を実現させるために「具体的な目標」としてどんなことをやらなくてはならないかを「年間」→「学期」→「月」→「週」と細分化して自分で設定できるよう欄を設けた。

「夢手帳」の利用度をさらに高める方策として、「夢手帳」をよく活用していた卒業生に「ヒント集」としてハンドアウト（次頁参照）を作ってもらい、在校生に来年度の手帳と同時に配布した。楽しみながらしっかりと「夢手帳」を活用して、時間や気持ちをセルフマネジメント（自己管理）し、夢に向かって一步一步前進してほしいと願っている。来年度も学校全体として、夢手帳の利用をさらに促す組織的な取り組みを一層充実させていきたい。



夢手帳表紙
 題字は書道部生徒の手による